

戦後70周年を迎え日本聖公会に差し上げる

大韓聖公会主教院の応答メッセージ

「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」（マタイ5：9）

神様のお導きのうちに韓日両聖公会は、30年間にわたる宣教協働の歩みと実りに共に感謝をささげる集いを、昨年、平和の島である済州で行いました。すべての日程を共にされた日本聖公会の主教様がたと参加者の皆様にあらためて感謝申し上げます。

新たな交流の時代を始めた今年2015年に、韓国は解放70周年、日本は戦後70周年を迎えます。この特別な時に日本聖公会が主教会をはじめとして管区や各教区の委員会などが中心となって過去を振り返りながら平和の器となるための預言者的な使命を担っておられることに深い敬意を表します。

日本聖公会主教会は、戦後70周年の復活日に発表されたメッセージを通じ「日本が侵略した国々との和解と平和が未だに実現していないことを、わたしたちは反省と痛みをもって覚え」ていることを明確にし、歪曲された歴史認識で一貫して国際的公憤を買っている日本政府の態度が誤っていることを指摘しました。さらに今後の課題として「南北朝鮮の平和統一を含む東アジア全体の平和と和解、そして、沖縄における平和の確立は今後とも日本聖公会の宣教活動の大事な課題であり続けることを改めて確認し、その実現のため努力を続けていきます」と宣言しました。

韓日聖公会宣教協働30周年記念大会の共同声明と日本聖公会主教会のこのような宣言を実践するための共通の取り組みとして、今年の6月23日には沖縄慰霊の日・戦後70年平和記念礼拝に大韓聖公会の訪問団も共に参加して、「平和コンサート」を開催しました。続いて8月6日の広島、9日の長崎原爆投下記念礼拝にも、韓日聖公会の代表が一緒に参加するなど、多様な協力関係が進められていることに感謝申し上げます。また、8月10日から15日まで、両聖公会の青年たちが韓日近現代史の葛藤の現場である中国延辺で、「東北アジア和解のためのセミナー」を開催します。同じ時期に実施される羅先病院に対する人道支援事業に日本聖公会が共に参加することにも深く感謝申し上げます。

わたしたちは、日本社会の中では小さな群れであっても「平和のしるし」となり、「和解の道具」になろうとする日本聖公会の宣教的努力を積極的に支持し、同じく小さい教会である大韓聖公会もまた兄弟姉妹愛的な協力関係をより一層成熟させて参りたいと望みます。遠くない過去に植民地支配と被支配の経験を持った両国が、和解の実りを通じて世界聖公会の中で神様の栄光を現わす貴い恵みにあずかることを切に願うものです。

2015年8月1日

大韓聖公会主教院

議長主教 ソウル教区主教 パウロ 金 根祥
釜山教区主教 オネシモ 朴 東信
大田教区主教 モーセ 兪 樂濬